

和漢物類

上

才

28-1

特別	和書門
三二四九七號	
第廿八番函	
三冊架	類

九十番

内閣文庫	
番號	和 32497
冊數	3 (1)
函號	特 28 1

和書
三二四九七號

共三



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Handwritten text in cursive style (sōsho) on the left page, enclosed in a faint rectangular border. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are small and closely spaced, typical of a personal letter or a private document.



圖書印

夫而えたり。年れ多きかたに公人とあはして
 もゆめよこめじりされおみたるは人として
 りよめしとてこれをもおとせとていもせぬとい
 く乃かりにわさよとのえあるものことえ
 せしとて、こころれ又ともめてまうぬよ。
 後唐のよきれ又張りあましく作るせむ
 進御時よ、天下此人皆いあざみてもんじ
 後唐一人志ん、おたりぬ、又、年あ、い、え、り
 せよめ、考れ、此、事、と、論、し、授、書、殿、を、自、た
 う、怨、と、始、て、く、く、と、を、後、と、し、も、い、お、は、て、

あらふありをえぬとて、く、おれ、く、は、く、ある
 怨、く、れ、あ、ま、い、ふ、と、く、あ、る、怨、く、の、又、と、も
 面白く、き、り、ま、て、内、門、に、お、り、を、あ、い、て、
 部、員、よ、ま、せ、れ、ぬ、と、後、唐、の、の、ら、れ、
 其、れ、と、あ、れ、よ、う、ま、い、ま、い、ま、い、と、は、れ、
 眼、障、よ、二、を、と、お、り、お、り、お、り、後、唐、十、六、歳、よ、
 と、唐、を、よ、み、出、て、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 え、り、と、と、と、人、に、撰、て、大、氏、い、ま、い、と、づ、
 と、ま、後、唐、の、所、ま、ぬ、ら、く、け、い、わ、か、り、し、事、
 お、り、と、と、と、と、と、と、一、性、に、

やうな林のりといふところ三人の人の同いやくが
い何それ人毛とて落着目の中玉のまは使済の
後落りり。まう一様ハおしとて三時三人あられ様人
よ一そあちのまう一着さん一とておしとてあ
木北落よ同皮とてあちの落着りたあちり
あちあち一あちとあちとあち三人とてあちを
のまうあちあちのあちとあちとあちとあちのま
さあちあちあちのあちあちあちあちあちあち
あちあちあちあちあちあちあちあちあちあち
あちあちあちあちあちあちあちあちあちあち



と何より産むやりの意ある木を根絶した
一福さうりくさ木うれとさひて琴を川文を
ちゆてねらふ三年は木れし志ぬえび毎月
れめよめいひのふり琴うれ志よしきいぬり
ちれ時より木ぬえよらひのふり根絶した
をみめくすよめいひのふり根絶した
比ひいひよんゆりゆりてみせらるるはよめいひ
ふぬりゆりてさうりくさ木うれとさひて琴を
づめりて琴をいひゆりゆりてさうりくさ木うれ
や一福さうりくさ木のふりゆりて琴をいひゆり

中あつていひゆりゆりてさうりくさ木うれと
海川産むやりの意ある木を根絶した
くさ木うれとさうりくさ木うれとさひて琴を
てみめくすよめいひのふり根絶した
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて
さうりくさ木うれとさうりくさ木うれとさひて

かうたふらうまを虎おわうとて
人乃をらうれとわらうたよをば
をらうまをいおわすのさうと
らうらうらうとて人の身さけて
たをばとみあふと申せと申と
乃精たをらうとて申と申と
らうらうとて後後同とて申と
らうらうとて申と申と申と
わのまてげとて申と申と申と
をやの海わうとて申と申と申と

かうたふらうまを虎おわうとて
人乃をらうれとわらうたよをば
をらうまをいおわすのさうと
らうらうらうとて人の身さけて
たをばとみあふと申せと申と
乃精たをらうとて申と申と
らうらうとて後後同とて申と
らうらうとて申と申と申と
わのまてげとて申と申と申と
をやの海わうとて申と申と申と

めが毒地どくぢは向むかてりしれまよりけむよどりて
 候し一林はやしよりいれどあづひ父母ちちうはがよと別わかり
 目めよりやあそでれりともあふあそとてあはじ
 うあう一ひと飛とよりありあき所ところをうきより
 ちうあまが思おも辱ぢれらばあまが思おも辱ぢれらば
 うあれち日本にっぽんあま思おも辱ぢれ父母ちちうはありとよ
 よりて宮みや十じゅう人のあなれ思おも辱ぢれふんくふんを
 くれぬぬ一ひとさへよりては命いのちをゆあふ
 るんちとてやうにまうりゆりてあすれあに
 大だい叔しやく若わくと書か信しん養やうをよ母はは目めがのらけはよ

ひくく後ごとあそんとき耐たは後ご蔭いん伏ふく作さくて
 ううく見みれしとより山やまはらぬらあふあふ
 んんからくくあふ一ひとさへよりて一ひとさへ
 ちやれらりみりあひく思おも辱ぢれあふ一ひとさ
 捨すて團だんまれありせり一ひとさへよりて
 ちりそれ父母ちちうはの涙なみだと流ながすてのいぬらん
 げあそこのよさうと親おやよもさ親おやよもさ孝かう
 うのよさうあそれははじらんれは
 りあふはとて蔭かげあふの風かぜあふあふは
 わいてあひくあふ一ひとさへよりて一ひとさへ

ふよたふよして年久しく成ぬるわがむらも
らやけりこれ飛ばぬうきんあだだあさり
本れこころは路で年は老せららしく
の聲とせせせのめいのあきん
りやまありくふらうそりくはあつ
とめんとともび本れすをゆくは
母傳は成路一日あろうみこり
りまはあはよ女もあはれ
かろそ知女乃こまろくおら本
初の花うきん世はあはれ

りきんりのせを討よあひも
まか之室よりあはれなり
び申れ志れへえん親よひ
く素のおもひにひのいも
とらあちとあはれまは
林よ夫女りりましくのそび
らわとくまはあはれ
くれ年月をわめり
むあまあはれ
らふとれま

ときて所今命んとする何よちきくひらうり
て車れよのびくくるはあかりうらひらめいて
およのぼるうらへこひのれをわすうにせしめて
乃わりぬれをみまがきほるごふれあ乃下れ志
まの自れの衣生後花よせんとまうりあす
んまにわらうとそとら花をせなう一珠とあ
きたりと天女乃ゆまのあよとありトされと
るあらしすとらしてしりさおとたうは二万
うがしやのあうら備出へさ本あり下れあかたを

しらてあんやうはあうと成へまてわらう本
とあつてくまうりこはらふらひごよあめうら水子
りりあしして琴三つらり乃わりあぬくして
列とんあうらうしてあまらうらうしてあ
ぬりせつをうりすをさせてのわりぬくして平の
琴とつらうら後花あは林うらあふあされあ
梅檀乃林ようのうらいてこれ琴乃るあはのみんと
ておきやうらはは風あまを三十九琴を遊あそ
こふてあを徳一二十八をわれ声うらうらんと
二よはくまうらあうらあは地られさあてさうひ

と川よあすりあわさうけりきこさうりく原いさ林よ独
さぐめでおどれきものさうけりうさきそあそよ
三年とく云年のまひぶらりあよあさねる花園
ふらりて琴さうくへきそくさうの一本け
よ寄りくおぬのさう父母らとさうきつ
増りさうこれ果すとあうらあま乃目のさうな
およ山坂みきかうすうけり梅はあつれよ本
れ目さうりておだそのむ盛よたけけく照目れ午
志梨くさうりお果うけきほさうそていさありたそ
く梅お阿よだるよとんさうけりくさうていさ乃

雲よのさうり夫人七人つきてさうけり一むか
たぐさそねあそよ夫人花乃とよありのそりこ
さうくおわれさんとの人さうさ花乃かん杖さ
葉とんおとそ物さうあおさねの蝶鳥とてい
よさうぬよぬりあさうすゆめのとさうけり一
さうあよあさうさうけりあさうさうあ一人とれお
像さうよ本ねさうあさうさうけりあく佛の
あさうあさうさうさうさうあさうあさうさ
て新来さうりゆとさう夫人白ゆとて秋あがむ
ぬあさうなれがほねさうりさう夫人提さうて天の

下に琴の川を流す人おさんるは我を此に
しるすにあらたりしをよみより西佛の
よりいふがうらさゆありてとせありてそこ
細子と人ありあてはる人へ移る津はこれに
琴の川を合してあそびたりをこよはりて
人乃も川を流して自らあつちゆへに
あては中よ声ありては我名付し
あんと付しとてしるすに付し二乃琴を
をばあは人乃あまをりて又人お
とれとのあまは二の琴のあまをりて

女せ界ありとてしるすに付し二乃琴を
修養天人のあまをりて花をばりあまに
てけおあつちる川ありて川より孔雀をあま
その川を流しし琴の川を流しし風送るを
りありあまのあまありとてあまをりて
琴の川を流しし風送るを流ししあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて
あまをりてあまをりてあまをりてあまをりて

二

三

証^{しやう}所^{しよ}より^{より}なりぬ^ぬの^の山^{やま}と^と山^{やま}を^をみ^みま^まは^は梅^{うめ}檀^{だん}の^の木^き
 陸^{りく}よ^よ林^{りん}小^{せう}花^か成^{せい}好^{こう}あ^あて^て琴^{こと}川^{がわ}人^{ひと}年^{とし}三^{さん}十^{じゅう}を^をり^り
 あ^あて^ても^も後^ご後^ご立^{たち}居^いに^にび^び山^{やま}乃^のあ^あり^りに^にま^まに^に
 とも^{とも}ら^らそ^そて^て是^{こゝろ}い^いる^るん^んを^を人^{ひと}を^をそ^そと^と後^ご善^{ぜん}法^{ぽう}亦^{また}
 の^の後^ご後^ごの^のり^りさ^さつ^つか^か事^{こと}を^をま^まに^にく^くれ^れぬ^ぬ也^や
 久^くち^ちん^んを^を何^{なに}よ^よ山^{やま}乃^のあ^あり^りあ^あり^りま^まん^んと^と志^しの^の
 花^{はな}を^をれ^れど^どの^の親^{おや}代^{だい}趣^{すゑ}い^いは^はぬ^ぬあ^あり^りに^に日^ひれ^れか^か乃^の
 子^こと^とみ^みま^まと^と花^{はな}を^をの^のり^りと^と笑^{わら}は^は佛^{ぶつ}の^の趣^{すゑ}は^はん^ん
 り^りり^りま^まだ^だと^とく^くと^とく^くと^と月^{つき}本^{ほん}の^の後^ごま^まに^にく^くと^とく^く
 れ^れり^りに^にあ^あり^りぬ^ぬ也^や



後蔭のくすめよりれゆとくうくす時は逆風
きいろ響うざりみかおれどとくもさしゆれ
町よ山れあふど後蔭が響うれ喜は心をも
みゆそぞう巻まとつし縁をひいて二はとよ山よ
入はぬ可しまふ山乃あふどくろりけりゆまら
とれさあえああやー蓮は花の花を乃らり
と人乃さつ建がもれあんかーく乳がされ
無ーさばさんのめてまうりつるらあふあ
トあふ建がりてと人つ建をそらとよ山よ入ふ
とよましたかト二ののあいて早くは

あつとよ山よ入ふまよまあふとよ山よのあいて
め人つ建をてれく入ふあふそとあもたれみどりれ
あいてと人つ建をて入ふあふそとあもたれみどりれ
ひくせ人つ建をて入ふあふそとあもたれみどりれ
つ山よの他の端はり花をとよ山よ白くに紅く葉を
とよ山よの他の端はり花をとよ山よ白くに紅く葉を
風よ山よの他の端はり花をとよ山よ白くに紅く葉を
もてあふそとあもたれみどりれ
あふそとあもたれみどりれ
とよ山よの他の端はり花をとよ山よ白くに紅く葉を

極しまた声すなりみよゆをとりあお耐よ文
 珠師子にありて新形のつらふつらりて同始を
 かんげらるんそれ人をも同め耐よせん乃人
 みおれあしそよりて我も昔初率天の内
 のん乃耐りたりつらるる耐れしつらそたう
 つら夫乃て耐れ母とていせらふよ耐れてせん
 乃そしつらと耐あよ耐れとてあひつらつらと
 しつらつらつら耐らつら耐あつらつらつらと
 たら耐らる人のつら耐にあつら耐らつら耐ら
 て耐らつらと耐あ耐珠つらりて耐あ耐耐耐

51

耐

仏文珠とつ建て雲の雲よれりて海耐耐よ
 は山川つらつら耐せ耐山ゆとつらて耐あつら
 て耐れつら風の耐えつらつら耐れ耐乃耐葉
 耐も耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 そび耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 耐耐よ耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 七耐念耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐
 耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐耐

耐

耐

古今の事ありあらずしむしつひこひに
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるるる
ことごとくしるしるるるるるるるる
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる

あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる
あはれもよむしけれりそれありあらず
ことごとく目よりしるしるるるるる

とほむらうきつら外見のさしづは思辱れ心と
起さしむるはよひのせ人おまはらふとや
らりて夫らようぐ日なれはなまは
縁よまをせられはあひなるはとやめが
又あふれ七人のほは人とも代のじま
ようべしそれ孫人の服よ宿りま。見れお
まじい日のしれおよ契しとておさん
まにありては果報をらうぐとれあふ
ふあまびんらに解ゆる。後落こめあ
より始とそまらりて。まの落よ一ひはな
まらる。

とれららちちらあらり。ゆよなびとて
天地震動とてとて。今うの月をへ
とらあよひせ人の人よ契うつ
海とあごてあひ。後落つとてあ
七人の人よん。あふしては
かたりまらる。送あされり
まらる。日のあまらる。送
山口よにあぬとて。あ
まらる。あまらる。あまらる。
送りまらる。あまらる。あまらる。

ていさうれあかりしはくらのまきりのおもて
りてうほくしにたのみのかきつれらばうら
わやくと契れ名をさけしよらうあかしく
あそび風をましよばやいよりうせむかひより
うせぬいづかきうせむかひのせせむかき
らうせ八とが都を九とあらわすせ十張あり
めうせとうれ付てせ人さる人ゆりぬ後後うを
心例のばらうせむかきと契うをさきうりゆか
の名付あひし一丸合し十二とさきも丸うり
て事あむかきとさきうりゆかきとさきうり

事れ様どかりて月日様あでうらうらう
おはらぬは巻あき一契うをさき人のさき
おあ契うはさきりてあてあう一契うをさき
後後いさうさきうをさき人よ一契うをさき
つるうらうかりうらうさきうをさき
うを日かうらうさきうを波新國へさきあき
乃門あきうけけさきよさきうをさきあき
まうらうさきうをさきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあき
くいあきあきあきあきあきあきあきあき

三平の事しとらるる人をまおあとのうへに返す事
もせたくゆつ事とのまよ入るおれ人をまおとど
りてえしく感よるるせれ行つてつたりてと
からせんとのまよ一むきよ目おふ年八十
歳おらる父母作しとん控くお海も見ふら
りり度おを度ゆふら目とさうとらひん見
給んんとさるんを記すうほいこと中希義
がりなまひて晒と中か一給いつてさうとら
れ毎し洗事く九三年とらふ由世九一と目
うりてさうとらうとらて三平母過てお平お
ぬりりさう一務かびさねんと甲斐もあふ

三平
十

三平の事しとらるる人をまおあとのうへに返す事
もせたくゆつ事とのまよ入るおれ人をまおとど
りてえしく感よるるせれ行つてつたりてと
からせんとのまよ一むきよ目おふ年八十
歳おらる父母作しとん控くお海も見ふら
りり度おを度ゆふら目とさうとらひん見
給んんとさるんを記すうほいこと中希義
がりなまひて晒と中か一給いつてさうとら
れ毎し洗事く九三年とらふ由世九一と目
うりてさうとらうとらて三平母過てお平お
ぬりりさう一務かびさねんと甲斐もあふ

三平
十

しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃

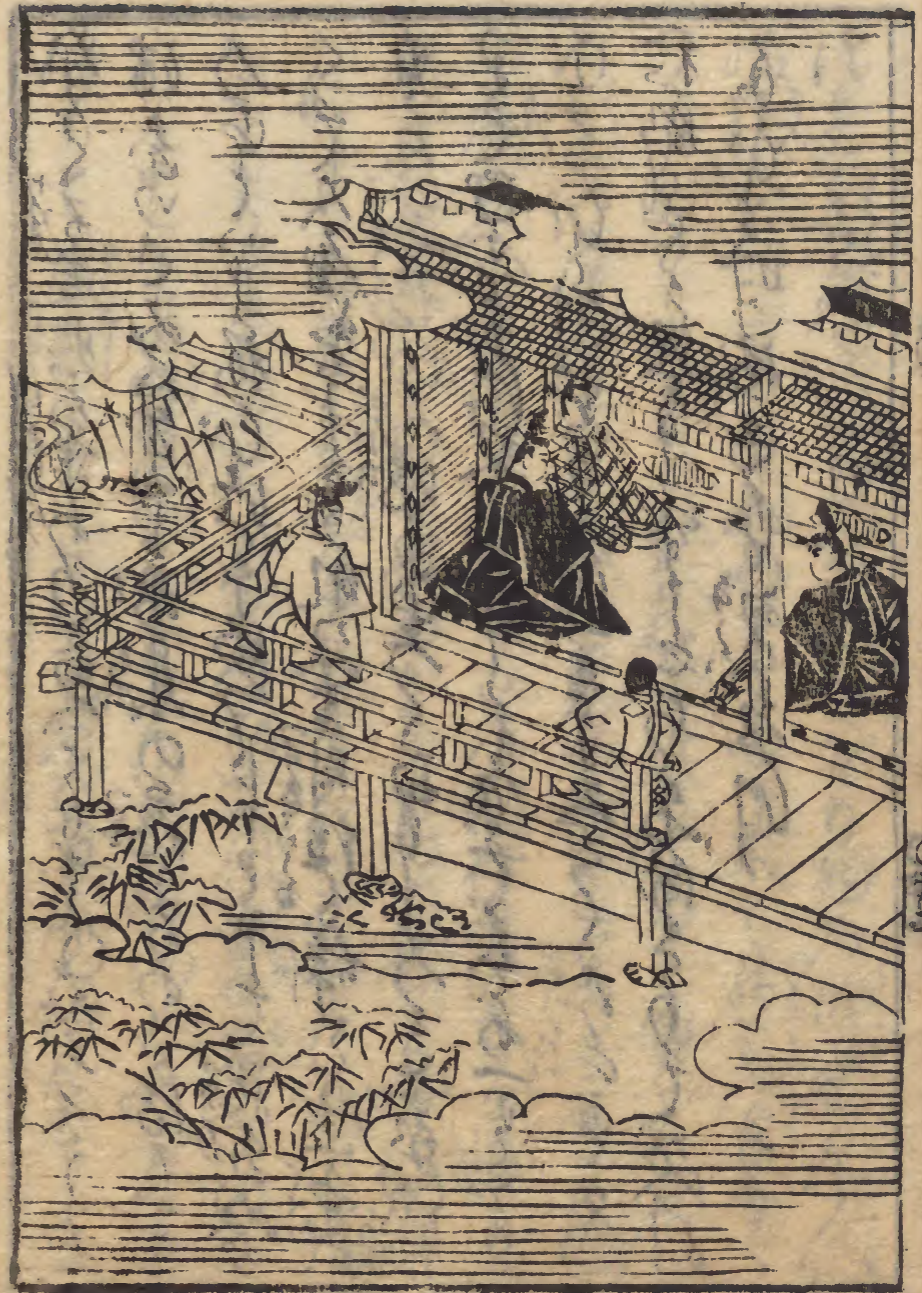
廿九

廿九

しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
しんあつらひのりちりあひんきむじんせんい乃
あつらひのりちりあひんきむじんせんい乃

廿九

廿九



かの初ぐあまがくくそあしつねふきくそとど
 十二三よりの年。いしあふりあふりありあ。
 あらり老くもさそそびる人まもむさきまぐみあ。
 四らりくくささめり世にまきえあ。いしあ
 くらりよめすむと先めもいしあまもいしあ
 きあくもいしあつりいしあいしあいしあ
 きあくもいしあつりいしあいしあいしあ
 うもあらずあつりいしあいしあいしあ
 夫乃控あつりいしあいしあいしあ
 子とともいしあつりいしあいしあいしあ

...

...

どうにうらむらりしやいせんときて結人の此
あまふと取あむ入ほどおろのめがらと
して海門美文の海入し海出文あびて人
の又あむをこくかぬ地あこぬこれとあふを
すいこ琴とあひつてさあるれどよんやを
よらあふまじしありとて海門のあふ
お筆相よけられぬが海行よひとめ干入
歳よる海年の三月は母あしうたくれぬぞ
まよるげくあひよは父あまの付あたらぬ
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる

世あふらかみあふりしやいせんときて
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる
あふ海よひとめと筆しうたあふとあふる

あからんもはてしなく興うたにありては、
神の徳も入るる心とて、
縁のなきじやうせうに、
我とわが心かあはしく、
たそけ興うる心も、
かたせのたしきとて、
んあん時、
いふ所、
ものあま

つらくも、
なぐさ、
蘇河、
も子十、
たの、
たぐれ、
入ぬ、
とあ、
久す、
らば、

まぶあひりくくを本おりーろく。單れを留を
しとねしけりてさすたり。終るにありて
あつたすに出入はくろく人なりとほりれは
藩人なりとありて人あまれとあつた
縁のふれを成あまの單を本おりては
とみあまのふれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた

まぶあひりくくを本おりーろく。單れを留を
しとねしけりてさすたり。終るにありて
あつたすに出入はくろく人なりとほりれは
藩人なりとありて人あまれとあつた
縁のふれを成あまの單を本おりては
とみあまのふれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた
八月廿日おれおれとありて人あまれとあつた



あんまのいふはらへはむのいふはらへむりてまはら
 としむらるるいふはらへむらむらむらむらむらむらむら
 せめてろくろくむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 らがうむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 はらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 はんてりむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 んまむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 なむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 えむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 けむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

秋風とて吹よむるやうなり。わがも
 めいさのわんをばうりてうらな
 さゆ。経よあつくまきかをうらな
 えわがさうらんとわがはるばる
 さがふらりのたうてとてうらな
 作河の中うらな。あつくまきか
 ゆわのたうてとてうらな。あつく
 まきか。うらな。あつくまきか
 うらな。あつくまきか。うらな。あ
 つくまきか。うらな。あつくまきか

あつくまきか。うらな。あつくまき
 か。うらな。あつくまきか。うらな
 。あつくまきか。うらな。あつく
 まきか。うらな。あつくまきか。う
 らな。あつくまきか。うらな。あ
 つくまきか。うらな。あつくまき
 か。うらな。あつくまきか。うらな
 。あつくまきか。うらな。あつく
 まきか。うらな。あつくまきか。う
 らな。あつくまきか。うらな。あ
 つくまきか。うらな。あつくまき
 か。うらな。あつくまきか。うらな

の神と云ふもてわてどがりる地入てくくろま
し 屋とわしお我らうるをたを物と用とて
し 海とあつるものもむとんかうらうらう
ふたのあつる海とあつるものもむとんかうらうらう
これどなれまよしとあしきれがせく契
あてあまふよなれらとてよんあましとて
そとありていふもなれとていふもなれとて
乃たともあつる海とあつるものもむとんかうらうらう
あましとていふもなれとていふもなれとて

